

本誌は『リーバイストライアスコミュニケーション活動推進基金』の助成により発行されてます。

「なにわ路情」がめざすもの

野宿生活者の生活や声をとりあげ、ともに考える新聞です。
脱野宿のきっかけとなるような紙面づくりを心がけています。
今までのと違ってこねらのことをよく考えていきますよ。

<http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/>

なにわ路情

野宿考ジャーナル 7号(隔月刊)

こちら路上医療相談室

第8回

A・S(社会福祉法人釜ヶ崎ストロームの家)

野宿とアルコール依存症について考える

切り離せない問題

野宿への道を防ぐうえで、野宿から抜け出し、それからでも、アルコール依存症への対応は重要です。そのくせ、野宿問題よりもっと「自業自得」論で片付けられがちなのに、この問題の深刻さがあります。ストレスがたまったり、仮眠が必要な職業のために飲酒を始め、これが長期化・深刻化し、ついには仕事そのものを失っていったケースにも出会います。その時点で適切なアドバイスや治療がなされていけば、と侮やまれます。失業や借金が野宿の根本原因だとしても、アルコール依存症が加わると、事態はもっと複雑化していきます。酒害が深刻に表面化するのはいくつもの量の上にあがってからです。生活保護などでもうやく野宿から脱出してアパートなどに住み、安定し

た地域生活を始めようとする段階で、アルコールが足を引っ張るケースはよくあります。しかも、内科疾患にアルコール依存症が重なっている場合は、両方に対応できる医療機関がきわめて少ないため、治療は困難を極めることになりま

りも大切になり、だんだんお酒に弱くなる。お酒の問題が大きくなっているにも、認められないし、やめられない。どうしたらいいの？

次の項目のうち、3つ以上があてはまる人の場合は、依存症ではないかと疑ってください。やめようと思っても、お酒を飲み続けてたまらなくなる。飲み始めると、やめられなくなる。迎え酒をしたことがある。快い酔い心地を得るためのお酒の量がだんだん増えている。お酒を飲むことが何よ

うつした病気を治療を野宿脱出のきっかけにすることもだいじなことです(この点は本紙前号でも指摘されましたね)。たしかに、野宿からでは通院することさえ困難です。それでも、大阪市内の場合、釜ヶ崎・あいりん地域では、大阪市立更生相談所で相談すれば、大阪市保健所あいりん分室(同じビル3階)や大阪社会医療センター(無料低額診療所の一つ)、あるいは小杉クリニク(天王寺区ほか)を利用することはできます。

保健所分室での判定の結果、精神科病院への入院や施設入所により通院治療につながるこ



とができます。また大阪市内で野宿生活をしている場合は巡回相談員に相談すれば、何らかの社会資源(施設や窓口)につないでくれるようです。

私たち釜ヶ崎ストロームの家でも、財政やスタッフの不足に苦しみながらも、自立プログラムやグループホーム、小規模作業所を通じて支援を行なっています。この方面の取り組みを強化するため、昨年社会福祉法人化したばかりです。次号では、一般的な治療や支援のしかたを紹介させていただきます。

ある小学生からのメッセージ

実験してみました

あらゆる人々が人権感覚を高め、お互いに人権を尊重しあう社会づくりをめざすという目的で、最近、人権教育という試みが、主に小・中学校などで行われています。

以下は、それに参加したある小学生が、かつて野宿をしていた方の話を聞き、感じたことをまとめたものです。それにしても、実験するなんて、子どもって本当に素直ですね。(1)

話のまとめとぼくの実験

F 小学校6年OY

KMさんの話をきいて、ぼくはいろんなことを学びました。いろんなことでも多いのでここにまとめようと思います。

まずダンボールでねていたと言っていました。自分でもやってみようかと、自転車にダンボールをのせて遠くの人けのないところまで持て見ました。すると、なぜか空がさびしくみえました。ホームレス

の人もこんな気分だったのだから。しかし本物のホームレスがなぜかとなりでねていたのはすごくおどろきました。

つぎに一日二食をやっていたと言っていたので、また同じことをやってみよう。すると一日が長くかんじました。ホームレスの人もこんな気分だったのならば、つらかったのではありません。一番よかったのはおなかいっぱい食べれることだそう。いや、まったくそのとおりでした。

ホームレスもたくさん生きています。人生がんば

編集後記



取材、編集して、印刷にまわし、発行、市内の公園、高架下、河川敷に配布、と休むまもなく、また取材、編集……。隔月刊ですが、忙しい。記載の発行日より遅れ気味です。みなさんのお手元に梅雨時に配布された場合は、ご容赦ください。

発行財源となっていて、リーバイストライアス財団の基金もまもなく切れます。何とかみなさんのお手元に届きますよう、さまざまな読者の方からの支援もまたお願いしたいと思っています。配布のお手伝いも募っています。(み)



よいコはマネ(ない)ようにしよう

淀川で あおぞら医療相談

医師ら5人がテント訪問

弘清会四ツ橋診療所 内科勤務医 黒川渡

反省と行動の一步として

3月21日、淀川河川公園であおぞら医療健康相談を行いました。医師の黒川です。

野宿生活を送る人たちに、では、医療はどうも垣根の高いものとなってしまっています。相談に行っているにもかかわらず十分に対応せず、ときにはあからさまに傷つける発言や、誰が聞いてもいいかげんな処置が行われることに対する不満や怒りが、野宿生活を送る人たちの中から訴えられる厳しい現実があります。医療に従事するものとして恥ずかしいばかりです。

昨年来、医療に関わる人たちの間で、野宿生活を送る人たちに、なにかできないかという機運が高まりつつあります。その結果、わたしたち医療従事者が直接、みなさんの生活の場に行つて、現実をしっかりと見つめ、真剣に何ができるかを考えるために、今回の医療健康相談を行いました。反省と行動の第一歩



として取り組みました。

健康回復へ緊急対応

当日は、医療ボランティアとして活動してきた医師、大阪府保険医協会に所属する医師など、計7名、協会事務局の方たちなど総勢25名が参加しました。相談が円滑に進むように、大阪市生活保護施設連盟・巡回相談員や元相談員の方々の応援をはじめ、NPO釜ヶ崎支援機構公衆衛生担当、国境なき医師団事務局、外国の方、学生など多彩な顔ぶれが集まりました。10時半

協力して支援継続へ

報告会では、さまざまな報告がなされました。小屋、テントの生活に至ったわけ、日常生活

集合、午後2時までという時間でしたが、障害物がない川べりでの風の強さと冷たさに、野宿生活を送ることのきびしさをあらためて実感しました。

四つの班に分かれ、テントや小屋をひとりひとり訪問し、健康に関する相談や血圧測定、診察を行いました。強い腹痛に悩まされている胃潰瘍を患う者のひと、高血圧のひと、むし歯のために歯がほとんどないひと、首の脊椎(せきつい)に問題があるために足が不自由になっているひと、肺結核のために入院をしていたが、その後検診を受けていないひとなど、12名の医療意見書を記しました。これらは巡回相談や大阪市の結核医療チームに託され、後日、急ぐべき人たちの対象に受診や検診が実現されました。

報告会では、さまざまな報告がなされました。小屋、テントの生活に至ったわけ、日常生活の送り方、仕事を見つけるための努力やそのむづかしさ、医療をふくむさまざまな制度への不満、はじめは「元氣や」と言われていたひと、健康に対する不安を語りだしたことなど、それぞれひとが、さまざまな悩みや課題をかかえながら、きびしい毎日にたえずつづき生きている現実を知ることができました。わたしたちが医療の現実のあり方をもう一度見なおすことの重要性と、みなさんへの理解を深めることの大切さを再確認しました。すべての参加者が、今後このような医療面でのみなさんへの協力と支援を継続していくことの大切さも確認しました。

今後、居宅や就労につなげるためには、さまざまな工夫や考えなければならぬことが山積みされています。福祉活動、就労支援をはじめいろいろな人たちと協力し、地道な活動を行っていききたいと思っています。

一人きりのとき参加者の一人から、「テントでいてはるひとがね、ありがとうっておっしゃって頭を下げて感謝してくれはったんですよ。」と語りかけられました。垣根をこえてひととひとがつながりあうための一歩を踏み出すことができたという正直な実感ややさしいまなざしにあふれたものでした。今回のような活動を通じ、わたしたち自身も変わっていききたいと強く実感し、今後の活動への決意を新たにしました。

紙面

1	あおぞら医療健康相談報告	3	協働であたらう野宿者支援
2	借金問題は解決できます	4	こちら路上医療相談室
2	極寒、北海道の野宿生活	4	ある小学生からのメッセージ「実験してみました」
3	京都に脱野宿の人々のグループホーム	4	「カマヤンと八起さん」編集後記

発行元
NPO元氣百倍ネット
なにわ路情編集局

〒530-8090 大阪中央郵便局留
NPO元氣百倍ネット
「なにわ路情編集局」係
tel 06-4397-9305
e-mail rojoinfo@zap.att.ne.jp
<http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/>

借金問題は解決できます(連載2)

『破産』についてその1

大阪弁護士会野宿者問題プロジェクトチーム
弁護士 大橋さゆり

Q『破産』をすれば借金を返さなくてよくなるということを聞いたのですが、『破産』とはどういうことですか。

A 破産というのは、裁判所が『財産より借金の方が多くて支払がでない状態にある』ことを確認する手続きです。財産と借金の資料を提出して、裁判所に判断してもらうことになります。もし、『財産』がありま



どものをお持ちではないですから、『管財人』は選ばれません。ただし、『支払ができないと確認された』だけでは、まだ『支払う義務は残ったままです。それで、『免責申立』という手続きがあります。これは、私

裁判所は、借金を作った事情を聞いて、債権者にも意見を聞いた上、免責許可を出してくれま



Q『免責許可』までもらわないといけないんですね。でも、私は結構パチンコや競馬にのめり込んでいたんです。それでも、『免責許可』はもらえますかね？

A パチンコや競馬で借金をこしらえた、ということになると『免責不許可事由』というものに当たってしまいます。『これで借金をまけてくれ、

ます。『破産は借金で失敗した人が立ち直って人生をやり直すための制度です。どうしようもなくなつて路上に寝ることになってしまった、その身にしまった辛さは想像を絶するものです。たとえ過去にパチンコや競馬にのめり込みすぎたとしても、今、やり直したい』と強く思っている以上、その気持ちをくんで、『免責許可』を出すべきではありませんか？

私たちがこれまでに自立支援センター入所者の破産申立をお受けしたものは、全部『免責許可』が出ています。正直に事情と気持ちを伝えることが大事です。心配はありませんよ！

では、ちょっと心配になる次の質問についての説明は、次回にします。

Q それじゃあ、『破産』の手続きをお願いしたいんですが、弁護士さんを頼んだら費用が高いでしょ？

Q いい話はかりなんですが、『破産』をしたら何か生活が不自由になつたりしないんですか。

京都に脱野宿のくたのグループホーム

助け合い、運営もおおらかに



京都市内のごくふつうの町並みの中に、入居者もとけ込むように住んでられるのではないのでしょうか？

京都市の定例ビッグイシュー(BI)販売員会議で、京都市内ですでに三年間、脱野宿生活者のグループホームを運営している原宗明さん(仮名 三七才)にお話しかけた。野宿生活を送るBI販売員からの質問、応答も入りました。

原 サラリーマンしてたんですが、なんかボラティアアでもと思い、夜回りに少し参加させてもらったんです。そのときに野宿の人と話しをして、こちらが家を用意すれば、それを足がかりに仕事探す、そういう意欲のある人がいるって感じたんです。それで本気でがんばるって人に自分

六畳リビング、四畳半と十五畳一間ずつ、最高で九人のべ十七人の入居で、就労自立が一人。現在七名が入居中、生活保護が一人とあとの六人は日中働いています。四四才から六八才で、旅館の血洗い、魚屋、工場などで働いています。全食家、でんらかを食べられて、食費一五万円に加えて、家賃一四万円や、光熱費など合わせて基本的に四万円です。

これはご自分で編み出されたものですか？

原 今の仕事は時間の融通のきくもので、ほとんど自分で考えて、運営も全部やってきました。愚痴はすいぶん聞いてもらってますが、彼らががんばって探しても、仕事

販売員1 自分がもし入居したら、働いている人と生活保護の人がいっしょに入ってトラブルとか共同生活のストレスがあるように思うのだけ。

極寒、北海道の野宿生活

今年一月の状況

厚生労働省の2003年1月の調査によると、

北海道には142人の野宿生活者がいる。札幌市88人、函館市25人、旭川市21人(うち女性1人)。

設や駅構内などで『暖』をとっている。大阪では、アルミ缶などの廃品回収で収入を得ている人が多いが、北海道では、アルミ缶などのリサイクルの仕組みができていないためか、

旭川市では、真冬には零下20度、札幌・函館市でも気温は当然零下となる。札幌市や函館市では、テントがはれないため、JR駅構内や函館港などで夜をしのいでいる。荷物は、かばん、紙袋など少ない。旭川市では、忠別橋の河川敷や橋げたなどでテントをはって生活をしている。雪を固めた壁で風除けをつくり、流木を炭にして寒さをしのいでいる。昼間は、図書館などの公共施設



夜7時半旭川市忠別橋の河川敷野宿者のテント(ともに200 1.12.13撮影)

れる、という。旭川市では、ケースワーカーが、全野宿生活者に生活保護適用のための声かけをおこなったが、身内が地元にいるためか、生活保護を受けずにいる厳冬時でも野宿生活を続けている人々も多い。

このような状況の中で、『北のホームレス』に対する支援が始まっている。札幌市では、北大の『北海道の労働と福祉を考える会』などが調査、炊き出しや健康、生活相談を行い生活保護適用などの支援などを行っている。そして函館、旭川、苫小牧でも支援活動が開始されようとしており、支援の輪が広がっている。

いる。BIでがんばつても月六万円なんです。だからこれ以上してもうたらみんな気が引けると思う。

原 4万円稼ぐのに使った労力は人それぞれなので、がんばつた金額なら、四千円の光熱費と一五万円の食費だけでもいいと思つてます。六万円あるなら三万円はいただくと思ひますが。

販売員3 それでもね、BIを朝から晩までやって、帰ったら疲れて、何も手伝いできないですよ。

原 全然OKです。ずつと家にいる人は、家のこと手伝つてもらつし、朝から晩まで一生懸命働いてる人は家に帰ってご飯食べて寝るだけで

もかまいません。

販売員1 原さんはそれで納得しても、他の住んでらっしゃる方はどうなんでしょう？

原 口に出すか出さないかは別にしても、そんなことは言わない人が多いです。もともとやれる人がやれることをやってみんなうまくいけばというコンセプトの家ですし、そういうことで文句言う人は続かないです。

販売員2 お金払えないと入れない、出て行けじやなくて、その方で意志があつたらできる限り原さんが対応するといっ

原 そうですね、一所懸命がんばることが入居

協働であたらつ

野宿者支援 シンポジウム報告

3月20日(土)ノ西成区 社会福祉研修・情報センター/参加者100名
主催・大阪市立大学大学院創造都市研究科 共生社会研究分野共同研究班

野宿者応援には多くの支援者協力が不可欠です。現場で野宿者を応援する当事者やボランティア、介護や雇用企業の担当者、NPOや更生施設長など様々な分野をこえた参加者7名が協働作業について現状や課題報告をおこない、フロアとの意見交換も行いました。

10人の当事者の参加と意見も飛び出し、当事者からは、こんなシンポを今後も企画してほしいという声をいただきました。

の条件で、半分の人がそうなら難しいかもしれないけど、トータルで家がやっていけるならそれで行くという感じかな。でも経済的なことはかなり考えてるし、自分も含めてそんなに楽な家ではないと思います。共同生活をしているという感覚で、家を買うお金は工面したけど、少し余計にお金を集めて損をおぎなつてるところもあるの、みんなのために僕が、という感じはあまりないですね(笑)。

ビッグイシュー(BI)販売員「雑誌ビッグイシューを90円で仕入れ、200円で路上販売する。販売員は野宿生活者が中心である。」